

へいせい ねん がつ にち
平成21年4月2日

さっぽろしちょう うえだ ふみ お さま
札幌市長 上田 文雄 様

さっぽろしちょう しゃこうつうひじょせいせいど かん ていげんしょ
札幌市障がい者交通費助成制度に関する提言書

さっぽろしちょう しゃ せいさくていげん しょう しゃ おお
札幌市障がい者による政策提言サポーターは、これまで 障がい者からの多くの
こえ き へいせい ねんど だい かいていげんしよていしゅつ さくねん かい ていげん おこな
声を聞き、平成16年度の第1回提言書提出から昨年まで5回の提言を行ってきました。

かいめ しょう しゃ おも かんが さまざま しかた みみ かたむ とくてい ないよう
4回目までは、障がい者の思いや考えに様々な仕方て耳を傾け、特定の内容
かぎ た き わた いけん も こ ていげん おこな
に限らず、多岐に亘る意見をできるだけもれなく盛り込んで提言を行ってきました。

ところが、さくねん がつ どうとつ さっぽろし しょう しゃこうつうひじょせいみなお ていあん
ところが、昨年2月、唐突に、札幌市から 障がい者交通費助成見直しの提案があ
おお りようしゃ ふあん こんらん あた にんしき きんきゅう よう こうつうひじょせい
り、多くの利用者に不安と混乱を与えたと認識し、緊急を要する交通費助成につ
かぎ ていげん しゅし さっぽろしちょう しゃこうつうひじょせいじぎょう
いて限った提言をいたしました。その趣旨は、「札幌市障がい者交通費助成事業の
みなお じっし へいせい ねん がつ じっし はや みおく
見直し実施については、平成21年4月の実施は早すぎるので見送るように」といった
ものでした。

わたし へいせい ねん がつ みなお あん ていげん
このように 私たちサポーターは、平成20年9月に見直し案についての提言をし、
しょう しゃ しみん はたら さっぽろし みなお じっし いちねんさきおく
また 障がい者や市民の働きかけにより、札幌市は見直し実施を一年先送りしまし
し あら みなお あん ことし はっぴょう よてい
た。しかし市は新たな見直し案をまた今年にも発表する予定です。

あら みなお あん わたし しょう しゃ いけん も こ しょう
その新たな見直し案に 私たち障がい者の意見を盛り込んでもらうために、障が
しゃ いけん き ば いちどう しょう しゃ こえ き つど しょう
い者の意見を聞く場として、サポーター一同は「障がい者の声を聞く集い～障が
しゃこうつうひじょせいせいど いけんちょうしゅかい さくねんまつ かいもよお
い者交通費助成制度について」という意見聴取会を昨年末より5回催してきました。
だ いけん ふ わたし こんかい しょう しゃこうつうひ
た。そこで出された意見を踏まえ、私たちサポーターは今回も 障がい者交通費
じょせいせいど かん ていげん
助成制度に関する提言をいたします。

ていげん しゅし
<提言の趣旨>

- さっぽろし しょう しゃこうつうひじょせいせいど しょう しゃ しゃかいさんか ひつよう
○ 札幌市の障がい者交通費助成制度は、障がい者の社会参加に必要
せいかつ き そ がいしゅつ いどう ほしょう せいど にんしき
で、生活の基礎となっている外出や移動を保障する制度であると認識
じょせい さくげん じゅうじつ もと
しています。したがって、助成を削減せず、むしろ充実を求めます。

＜^{ていげん りゆう}提言の理由＞

^{しょう}障がい者^{しゃこうつうひ じよせい じぎょう}交通費助成事業は、^{さっぽろし}札幌市では^{しょうわ ねん}昭和46年より^{しんしんしょう}心身障がい者^{しゃこうつうひ}交通費助成事業として始まり、^{じよせい じぎょう}平成10年からは^{はじ}精神障がい者への^{せいしんしょう}交通費助成事業も始まり、^{さっぽろし}札幌市に暮らす^{しょう}障がい者にとっては、^{しゃかいさんか}社会参加する上で^{うえ}必要不可欠な^{やくわり}役割を果たしてきました。^{しょう}障がい者への^{しょう}交通費の^{じよせい}助成は、^{わたし}私たちの^{いのちづな}命綱であり、^{いま}今の^{せいかつ ふかけつ}生活に^{さくげん}不可欠です。^{しょう}それを^{しょう}削減すると、^{しょう}障がい者の^{せいかつ な た}生活が^{な た}成り立たなくなります。
また、^{げんじょう}現状の^{じよせい}助成でも^{ふじゅうぶん}不十分な^{しょう}障がい者も^{しょう}おりますので、^{さら}更なる^{じゅうじつ}充実が^{ひつよう}必要です。

＜^{こべつ ていげん}個別の提言＞

・^{ふくし}「福祉パスについて」

^{ふくし}福祉パスについては、^{さっぽろし}札幌市の^{とうしょ}当初の^{みなお あん}見直し案では^{はいし}廃止の^{ほうこう}方向でしたが、^{たと}例えば^{しせつ}施設への^{つうしょ}通所や、^{つうがく}通学・^{つうきん}通勤・^{つういん}通院を含め、^{ふく}障がい者の^{しょう}社会参加の^{しゃかいさんか}促進や^{そくしん}生活に必要な^{せいかつ}外出の^{ひつよう}機会を^{がいしゅつ}確保する^{きかい}最も^{かくほ}利用しやすい^{もっと}助成制度で^{りよう}利用者が^{じよせいせいど}多いので、^{りようしゃ}是非^{おお}残して^{ぜ ひ の こ}いただきたい。

^{たと}例えば、^{きょじゅうち}居住地によって^{こうつうひ}交通費は^{こと}異なり、^{えんきより}遠距離の^{いどう}移動が^{ひつよう}必要な^{もの}者にとって、^{じょうげんせってい}上限設定を受けることは^う不平等であるが、^{ふびようどう}福祉パスであれば^{ふくし}問題は^{もんだい}ありません。

^{とく}特に、^{しかくしょう}視覚障がい者、^{しゃ}知的障がい者、^{ちてきしょう}肢体不自由者は^{しゃ}ウィズユーカードを、^{したいふじゅうしゃ}残額を^{ざんがく}計算することや^{けいさん}読取り^{よみと}機械に通すことなどが^{きかい}難しく、^{とお}福祉パスが^{むずか}有効です。^{ふくし}

^{さら}更に、^{せいしんしょう}精神障がい者は^{しゃ}過去に^か長期に^こ入院していた^{ちゅうき}人が多いので、^{にゅういん}自由に^{ひと}外出し、^{ひと}社会経験を^{おお}積まないと^{じゅう}社会で^{じゅう}生活できず、^{けっきょく}外出できないと^{けっきょく}結局^{びょうじょう}病状を^{わる}悪くし、^{さいにゅういん}再入院する^{けっか}結果になり、^{しゃかいてきひよう}かえって^{しゃかいてきひよう}社会的費用がかさんでしまう^{こと}になります。

また、^{しょうすう}ごく少数ではあるが、^{いちぶじこふたん}一部自己負担しても^{せいど}制度を^{のこ}残してほしいという^{いけん}意見もありました。^{いけん}こういう意見があることは、^{ふくし}福祉パスが^{ひつようふかけつ}必要不可欠な^{せいど}制度であるということです。

・^{けん}「タクシー券とガソリン券について」

^{けん}タクシー券や^{けん}ガソリン券の^{じよせい}助成については、^{とうしょ}当初の^{みなお あん}見直し案では、^{おおはば}大幅に^{さくげん}削減されています。しかし、^{くるま}車いすや^{はくじょう}白杖などを^{りよう}利用する^{しんたいしょう}身体障がい者は、^{しゃ}福祉パ

スやウィズユーカードを使うことができない人もいます。また移動のための介助者も必要なことがあり、その交通費もかかることとなります。そうすると、車で移動する場合も多く、タクシー券やガソリン券は削減どころか、拡充してほしいという声も多いです。また中度の方も利用できることが望ましいと考えます。

また、夏は公共交通機関に乗れるが、冬は車しか使えない人のために、福祉パスとタクシー券・ガソリン券の年度途中での切り替えをしてほしいという要望もありました。

更に、タクシー券の現行の利用の仕方では、基本料金を助成する制度の趣旨から、一乗車につき一枚という利用枚数の制限があるが、できたら必要なときには複数枚でも使えるような制度にしてほしい。

・「精神障がい3級への助成」

精神障がい3級への助成が現状では年33,000円の共通ウィズユーカードの支給だけで、他の障がい者と比べ、圧倒的に少ないという以前からの問題があります。精神1、2級は福祉パスをもらえるのに、病状がよくなり、外出の機会が増える3級になると、逆に外出しにくくなるのは実態に合っていません。私たちは3級にもウィズユーカードの支給額の大幅の増額や福祉割引ウィズユーカードや、できたら福祉パスを支給したらいいと考えます。

・「実態調査（アンケート等）の実施」

障害種別や程度による交通機関の利用状況などの実態を調査するアンケート等を、できたら障がい者全員に対して再実施していただきたいと存じます。市が以前に取ったアンケート（「障がい者交通費助成に関するアンケート調査」）では、前もって交通費助成制度の見直しのデータとするとの説明がなく、また統計対象の人数が限られ、制度を築くためのデータとしては、充分なものとは受け取りがたいからです。

札幌市障がい者による政策提言サポーター一同